

《令和3年度 茨城支部ニュースレター 第2号》

「令和3年度第1回公開講座」「第2回資格更新研修会」が行われました。

1 日 時 : 令和3年10月3日(日) 13:30 ~ 16:30

2 場 所 : ZOOMによるオンライン

3 参加者: 総数85名

臨床発達心理士有資格者59名(茨城支部27名, 東京支部9名, 他23名), 一般26名

4 テーマ: 「GIGA スクール時代の特別支援教育におけるICTの活用」

5 講 師 : 茨城県教育庁 学校教育部特別支援教育課 指導主事
山口 禎恵 先生

6 内容

特別な支援を必要とする児童・生徒に対する、ICTを活用した支援について、小学2年生から中学2年生までの15名のお子さんの事例を通して、山口先生のこれまでの具体的な実践についてご教示いただきました。

○読みの支援

音声ペンと音声付教科書の使用, 音声つきテストを作成, 音声読み上げ機能ソフト等の活用など
⇒“一人でも学習に取り組めた”という達成感が得られ, 自信が持てるようになった。

○書きの支援

タブレットでの板書撮影, マインドマップアプリの活用, 作文代筆, タイピング練習, 電子教材の活用
⇒書くことの負担が軽減され, 学習意欲が出てきた。伝えたいことが表現できたことで達成感が得られた。

○話すこと・聞くことの支援(小集団)

AR (Augmented Reality) アプリの活用

⇒発表の苦手な子も発表することができた。他児の話に興味をもって聞くことができた。

○計算の支援

計算機や自作計算機アプリの活用, Excelドリルなど

⇒一人で課題に取り組めるようになった。書字の困難さから解放され, 計算に集中できた。

○不登校の支援

代筆支援, OneNote等を活用した交換日記など

⇒自己肯定感が向上し, 少しずつ登校できるようになった。欠席の連絡を自分でできるようになった。

○場面緘黙への支援

コミュニケーションアプリの活用, チャット会話, プログラミングによる自己表現など

⇒アプリを通して, 先生やクラスメイトと会話ができるようになった。

○不適応行動への支援 (※時間を固定して支援することが大切)

支援学級でゲームづくりをしてクールダウン, 得意なことを動画撮影して表現

⇒離席が減った。得意なことを認められて自信がついた。

○社会性への支援

プログラミングを活用し, TEACCHの手法でルール理解

○発達性協調運動障害への支援

プログラミングを活用し, なわとびのカウントを一人でできるようになった。

○コミュニケーションの支援(小集団)

『マイクラフト』の活用

⇒ゲームを媒介にして, 積極的にコミュニケーションをとるようになった。協働活動に有効。

○自尊感情への支援(小集団)

PowerPointを活用し絵本づくり

⇒表現したものを認められることで喜びや達成感を得られた。

○自己認知への支援(小集団)

自分の問題行動や特性について動画で表現

⇒自己認知が深まり, 自己肯定感も向上した。

山口先生は、「ICTに学びを救われる子はあなたのそばにいる」という言葉を胸に、これまで支援に携わってきたとお話をされてきました。また、成功事例ばかりでなく、効果不十分な事例とその考察についてお話しくださいました。今回ご教示いただいたことを、私たちがそれぞれの支援の場で実践していくことで、さらにICTの活用を広げていきたいと思っております。

(文責 松本一恵)

<お知らせ>

第2回公開講座、第3回資格更新研修会

『ふれあいペアレントプログラム指導者養成講座』

講師：尾崎 康子先生

期日：第1日目 11月21日（日）～11月29日（月）オンデマンド

第2日目 12月5日（日）9:30～16:30

第3日目 12月29日（日）9:30～16:30

オンライン研修となります。

※受付は終了いたしました。

第3回公開講座、第4回資格更新研修会

『発達障害の不安と向き合うための服薬や生活改善（仮）』

講師：中山 智博先生（茨城県立医療大学）

日時：2022年2月20日（日）13:30～16:30

オンライン研修です。